

学生・教員との連携

(1) 学生あるいは教員による図書館3階資料展示室での企画展示

- 教員に対し、授業・研究に関連した企画展示を呼び掛ける（卒業制作など）。教員との連携を深める、学生の学習成果の発表の場となる、などの効果が見込まれる。
- 学生から企画を募る。学生の企画力アップを図るとともに、学生による企画を見ることで、他の学生への刺激となる、などの効果が見込まれる。

(2) 学生団体の活動報告会

- 学内には、大学公認ではないボランティア団体など、多くの学生団体がある。これらの団体同士の交流、他の学生への広報を目的として、定期的に図書館で報告会を行う。

(3) English スペース

学生の語学力アップをはかるため、英語のみ利用可能なスペースをつくる。学内で同じような企画があるため、連携できるかどうか探る。

(4) 教員とコラボした講習会（レポートの書き方など）

- 学生にとって「レポートの書き方」を習得することは大変重要な課題であるが、図書館職員では十分なサポートができないため、教員による講習会を開催する。その際、SSSの協力教員や他の教員と連携することで、SSSの利用アップと、SSSへの協力教員の増加を目指す。

イベント

(5) 研究室紹介イベント

- 学生が所属研究室を選択する際の参考となるような、研究室の研究内容や雰囲気を紹介するイベントを開催する。これら学生や教員の発表を聞くことにより、聴衆の学生が学修へのモチベーションを高める、という効果も期待できる。

(6) ビブリオバトル

- 図書を読むことを楽しむ、本や人に出会うきっかけとなる、プレゼン能力を高める、コミュニケーション能力を高める、などを目的に、図書館でビブリオバトルを行う。学生企画とすることで、学生の企画力アップも期待できる。
 - ※ ビブリオバトル…5分間で本をプレゼンし、チャンプ本を決める「本を紹介するコミュニケーションゲーム」

(7) サイエンスカフェ

- 科学への興味・関心を高めるため、サイエンスカフェを行う。すでに学内の教員、学生による企画があるため、図書館から場所の提供について提案する。
 - ※ サイエンスカフェ…科学について気軽に語り合う場

資料活用

(8) ブクログでブック交換

- 学生同士で必要な本を交換利用する場として、ブクログを利用する。利用の際は、本の書評もできるだけ登録し、学生同士のオススメ本紹介コーナーとしても運用することも考えられる。

- ※ ブクログ…仮想本棚を作成できる web サービス

- ※ ブクログ交換…本の交換会

(9) 古本市（オープンキャンパスあるいは学祭）

- 図書館で不要となった図書、あるいは学生などから提供された図書の古本市を行う。他大学では販売を生協に委託している例がある。図書の有効利用をはかるとともに、企画を学生企画とすることで、学生の企画力アップも期待できる。

(10) 授業サポートナビ

- 授業に関連してどのような本を読んだらよいか迷う学生は多い。現在歯学部の教員との連携により提供している「授業サポートナビ」を全学部に拡張する。

- ※ 授業サポートナビ…各講義のシラバス掲載図書や学習に必要な図書、Webサイトを教員に紹介してもらい、リストアップされた図書を館内にコーナーを設けて別置する試み（原則的に貸出可・不可を各1冊ずつ用意しているため、来館すればいつでも読むことができる状態になっている。）

(11) レポート・課題図書の連携（レポートに使用する図書を必ず図書館に連絡する）

- レポート課題図書は、シラバスに掲載されないことが多いため、課題を出す前に図書館にお知らせいただき、できるだけ入荷する。初めからすべての教員と連携をとるのは難しく、また予算措置も難しいと思われるので、まずは連携教員を募る。

授業開発

(12) 初年次教育で、文献検索講義を開催（必修の「情報科学入門」などと連携）

- 学術文献の検索については、インターネット検索だけでは充分でない部分があるため、図書館で講習会を開催しているが、参加者は少ない。他大学で行われているように、文献検索スキルを大学教育をすすめる上での基本的スキルにとらえ、初年次教育で全新入生が一定の文献検索能力を取得するための講義を行う。

(13) 学部FDなどと連携した、インストラクショナル・デザインを用いた「情報リテラシー授業」の開発

- これまで図書館で行ってきた講習会には到達目標などが設定されておらず、受講した効果などを図ることができなかった。また、多くの利用者に有用な内容にするために、一つの講習会の中に初心者レベルの内容や上級者レベルの内容が混在しており、結果として冗長なものになっていた。そこで、講習内容をレベル別に設計し、到達目標に達したかどうか検証できるような内容に変更する。その際に、大学教育として必要な情報リテラシー教育とは何かを関係教員と協議した上で、目標設定などを行い、より大学教育に資する内容の講習会として開発・設計を行う。

(14) ボランティア授業で「図書館おこし」を企画してもらう

- 共通教育授業などでは、座学ではなく実践を通じて学ぶ「ボランティア」授業がある。このようなボランティア授業では地域で活動を行うことが多いが、ボランティア活動の場所を図書館とすることで、ボランティアの成果を学生が身近に感じることが出来るようになる。また、「図書館おこし」というテーマで企画からその効果検証までを行う実践的な課題解決学習を行うことにより、学生の企画力、企画推進力、データ分析能力、図書館を利用するスキルなどを養うことができる。さらには、この企画により学生目線による図書館のサービス改善も期待できる。

共同研究

(15) 図書館の貴重資料解説（教員・学生連携）～「蜂須賀家家臣団成立書并系図」の現代語訳、電子書籍出版など

- 貴重資料である「蜂須賀家家臣団成立書并系図」はデジタルデータとして公開されており、多くの方に利用されている。しかしながら、記述がくずし字や漢文であるため内容の把握が難しく、図書館には度々「現代語訳はないか」との問い合わせがある。そこで教員・学生と連携して「楷書による標記」および「現代語訳」翻訳作業を行い、利用に供したい。専門の教員、学生と連携することで、教員の研究推進や、学生の実地教育にもつながる。また、この成果物を書籍化して販売することで、図書館の自己収入にもつなげることが可能となる。また、電子書籍化して徳島大学出版会から出版することも考えられる。

(16) 工学系研究室とのコラボによる、ホログラムを使った情報リテラシー教材開発

- 簡単な疑問をすぐに解消できるような Q&A 方式の情報リテラシー教材を開発する。siri のような音声認識機能により質問内容を聞き取り、回答を音声と画面で表示する。インターネットでの利用に加え、館内に専用のシステムも開発する。iPad や iPhone を利用してホログラムを映し出せる装置が市販されているので、ホログラムでキャラクターを表示して、そのキャラクターと受け答えをするようなものを想定している。

(17) 総科マルチメディア系研究室とのコラボによる、「飛び出す図書館利用案内」作成

- 学生の課題制作あるいは学生有志による制作として、図書館を説明する際に利用できる立体的な利用案内を作成する。あわせて大型のものも作成すれば、館内案内板として利用することが出来るため、多くの利用者に学生の学習成果を見てもらうことが出来ると同時に、制作した学生にとっても、達成感を味わう機会を得ることにつながる。